

ミヤマオビオオキノコ

澄川基地で薪材の玉切りをしていました。足元のオガクズにまみれて、もがいてしる甲虫に気づきました。しばしば見たことがありますが、カメラに収めたことは初めてでした。ブラックとオレンジの色をとりあわせた装いの虫たちはいろいろいますので、現場で同定する自信はありません。撮影日時は2017年6月29日12時43分でした。

図鑑でミヤマオビオオキノコと確認できました。左の触角の先がなくなっています。大きさは11~15mm。分布は日本全国、海外のことはわかりませんが、カワラタケの分布に重なるのであればかなり広いと思われます。発生は6~8月です。キノコムシは主にキノコを食べる虫として分類上括られているわけで、本種はカワラタケを主食にしているとのこと。カワラタケは澄川森林でも最も多く発生しているキノコです。積み上げた薪や植菌したホダ木にも発生しますので、この虫が薪材に寄っていたのは自然なことでした。



ネットでカワラタケと検索しますと、薬用例がずらりと出てきます。漢方薬としても伝統的なようです。クレスチンという癌に効く薬用物質があるとかで、なかなか侮れないキノコであります。



がある昆虫の世界で至難のことだと思ふのです。和名と学名が記載されていますので、確定されているのです。図鑑「札幌の昆虫」には他3種は掲載されていません。北海道にはいないものと思われます。

幼虫の写真がありましたので、借用掲載させていただきます。カワラタケの菌糸を食べているとのこと。親子ともどもカワラタケに依存しているのです。

ネットで見つけた4種類のキノコムシをご覧ください。左から2番目が本種であります。この4種が別種だと決めた専門家に脱帽です。同種でも色違い、模様には微妙な違い



ヒメオビオオキノコムシ
Episcapha fortunii

ミヤマオビオオキノコムシ
Episcapha gorhami

タイシヨウオオキノコムシ
Episcapha moravitzii

キオビオオキノコムシ
Episcapha flavofasciata

lucidofasciata